

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11.08

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	耐熱シルバーコート 300MLX10X2
製品コード	2755
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1 - 1
担当部門	技術開発部
担当者	永富和哉
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	自動車マフラーや排気マニホールド、高温で使用される金属に表面仕上げおよび腐食防止
作成日	2004年6月1日
改正日	2016年4月13日
整理番号	2755-03

2. 危険有害性の要約

GHS分類

エアゾール	区分 1
引火性液体	区分 3
皮膚腐食性／刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2A
発がん性	区分 2
生殖毒性	区分 1 (1 A 及び 1 B)
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分 1
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	区分 3 (麻酔作用)
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	区分 1
吸引性呼吸器有害性	区分 1
水生環境有害性 (急性)	区分 2
水生環境有害性 (慢性)	区分 3

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11. 08

危険有害性情報

極めて可燃性／引火性の高いエアゾール
 高压容器: 熱すると破裂のおそれ
 引火性液体および蒸気
 皮膚刺激
 強い眼刺激
 発がんのおそれの疑い
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ
 臓器の障害
 呼吸刺激を起こすおそれ、又は眠気やめまいのおそれ
 長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害
 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
 水生生物に毒性
 長期的影響により水生生物に有害

3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別

・ 混合物

成分名／化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
シリコーン樹脂	非公開	非公開	非公開
着色顔料	非公開	非公開	非公開
キシレン	17	1330-20-7	(3)-3
エチルベンゼン	17	100-41-4	(3)-28
中沸点脂肪族ナフサ	1~5	64742-88-7	—
低沸点脂肪族ナフサ	1~5	64742-95-6	—
ジメチルエーテル	40~50	115-10-6	(2)-360

PRTR法報告物質

PRTRに該当する。

制令番号	物質名	含有量
1種53	エチルベンゼン	17%
1種80	キシレン	17%

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有するが、規定量以下のため非該当。

労働安全衛生法

通知物質： 法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

制令番号	物質名	含有量
70	エチルベンゼン	17%
136	キシレン	17%
330	石油ナフサ(中沸点脂肪族ナフサ、低沸点脂肪族ナフサ)	1~10%

有機溶剤中毒予防規則

該当する。

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11.08

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・眠気やめまいの症状が出た場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい状態で休息させる。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・吸入の影響が遅れて現れることがある。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところをよく洗うこと。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・気分が悪くなった場合は、医師の診断を受けること。
- ・皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・この製品は引火性なので、火気に注意して措置する。
- ・衣服等に付着した場合は、脱いで皮膚の付着した部分を十分に洗い流す。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・揮発性液体なので、吐き出させるとかえって肺への吸引等の危険が増す。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。
- ・必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11.08

5. 火災時の措置

消火剤

- ・粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂

使ってはならない消火剤

- ・水を消火に用いてはならない。
- ・冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

火災時の特有の危険有害性

- ・燃焼ガスには、一酸化炭素等の他、窒素酸化物系のガス等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。
- ・当該製品は着火後爆発の危険性があるため、直ちに避難する。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
- ・容器が高温で破裂する恐れがあるので消火活動には十分距離をとる。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- ・大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11. 08

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- ・付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する
- ・火花を発生しない安全な用具を使用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
- ・裸火または高温の白熱体に噴霧しないこと。
- ・熱・火花・裸火・高温のもののような着火源から遠ざけること。
- ・容器を接地(アース)をすること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・火花を発生しない工具を使用すること。
- ・防爆型の電気機器(換気装置、照明機器等)を使用すること。
- ・規定時間以上噴射しないこと
- ・火気を使用している室内で使用しないこと
- ・漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気が発生させない。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・人体に向かって噴射しないこと、また噴射気体を直接吸入しないこと
- ・取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。
- ・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・涼しい所、換気の良い場所で保管すること。
- ・施錠して保管すること。
- ・湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかないこと
- ・熱/火花/裸火/高温のもののような着火原から遠ざけること。

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11. 08

安全な容器包装材料

- ・特になし

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。
- ・労働安全衛生法（有機溶剤中毒予防規則）に沿った設備を設置する。
- ・屋内は全体に換気する。換気の悪い場所及び蒸気の発生が多い場所には局所排気装置を設ける。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
シリコーン樹脂	—	—
着色顔料	—	—
キシレン	50ppm	日本産業衛生学会（2005年版） 50ppm 217mg/m ³ ACGIH（2005年版） TLV-TWA 100ppm TLV-STEL 150ppm
エチルベンゼン	20ppm	日本産業衛生学会（2006年版） 50ppm 217mg/m ³ ACGIH（2006年版） TLV-TWA 100ppm
中沸点脂肪族ナフサ	—	—
低沸点脂肪族ナフサ	—	—
ジメチルエーテル	—	—

保護具

呼吸器の保護具

- ・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

- ・保護眼鏡（普通眼鏡型）、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・保護衣、保護前掛け等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観

内容液

: 銀色液体

噴射剤

: 大気圧下：ガス状、
圧力容器内：液状
無色透明

臭い

: 溶剤臭

: やや甘味臭

臭いのしきい値

: データなし

: データなし

pH

: なし

: なし

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11.08

融点/凝固点	: データなし	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: 136℃	: -24.82℃
引火点	: 28℃	: -41.1℃(密閉式)
自然発火温度(発火点)	: 432℃	: 350℃
燃焼性(固体、気体)	: データなし	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: 下限1.0%、上限7.0%	: 下限3.4%、上限27.0%
蒸気圧	: 1400Pa (25℃)	: 1930mmHg (247KPa、0℃) 3800mmHg (507KPa、0℃)
蒸気密度	: データなし	: データなし
蒸発速度	: データなし	: データなし
比重	: 1.00	: 0.661 (20℃)
溶解性	: 水に不溶	: 水: 7.0g/100g (18℃) 水: 35wt% (24℃、5気圧)
オクタノール/水分配係数	: データなし	: データなし
分解温度	: データなし	: データなし
粘度(粘性率)	: データなし	: データなし
その他のデータ	: データなし	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・通常の取扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発をもたらす。

避けるべき条件

- ・加熱・熱源・裸火
- ・強酸化剤との接触を避ける。

混触危険性物質

- ・強酸化剤(引火性物質のため、強酸化剤との接触を防ぐこと。)

危険有害な分解生成物

- ・特になし

その他

- ・特になし

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11. 08

1.1. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・キシレン

《急性毒性》

経口：ラットを用いた経口投与試験のLD50=3,500 mg/kg (CaPSAR (1993)), 4,300 mg/kg (環境省リスク評価第1巻 (2002)) のうち、低い値に基づいて区分5とした。

経皮：ウサギ：LD50=>4,350 mg/kg (IUCLID (2000)) に基づくと、区分5または区分外と考えられるが、確定値でないので、分類できないとした。

吸入(ガス)：GHSの定義による液体であるため、ガスでの吸入は想定できず、分類対象外とした。

吸入(蒸気)：ラット：LD50(4時間)=29.08 mg/L(環境省リスク評価第1巻 (2002)) (6,700 ppmに相当)。飽和蒸気圧濃度より低い濃度であるため、ppm濃度基準値で分類し、区分外とした。

吸入(粉じん、ミスト)：データなし

《皮膚腐食性／刺激性》

ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果(CERI・NITE有害性評価書 No.62 (2004)) の記述から、「中等度の刺激性」がみられるとあり、区分2とした。

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》

ウサギを用いた眼刺激性試験の結果(CERI・NITE有害性評価書 No. 62 (2004))の記述から、「中等度 (moderate) の刺激性」を有するとあり、区分2Aとした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性：データなし

皮膚感作性：データなし

《生殖細胞変異原性》

CERI・NITE有害性評価書 No.62 (2004)、CaPSAR (1993)、IARC (1999)、NTP DB (Access on December 2005)の記述から、ヒト経世代疫学で陰性、経世代変異原性試験なし、生殖細胞 in vivo 変異原性試験なし、体細胞 in vivo 変異原性試験(小核試験・染色体試験)で陰性であり、生殖細胞in vivo遺伝毒性試験なしであることから、区分外とした。

《発がん性》

ACGIH (2001)でA4、IARC (1999)でGroup 3に分類されていることから、区分外とした。

《生殖毒性》

CERI・NITE有害性評価書 No.62 (2004)、EHC 190 (1997)、IRIS (2003)の記述から、マウスの発生毒性試験で親動物に一般毒性がみられない用量で、胎児に体重減少、水頭症がみられていることから、区分1Bとした。

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

ヒトについては、「喉の刺激性、重度の肺うっ血、肺泡出血及び肺浮腫、肝臓の腫大を伴ううっ血及び小葉中心性の肝細胞の空胞化、点状出血と腫大及びニッスル小体の消失を伴う神経細胞の損傷、四肢のチアノーゼ、一過性の血清トランスアミナーゼ活性の上昇、血中尿素の増加、内在性クレアチニンの尿中クリアランス低下、肝臓障害及び重度の腎障害、記憶喪失、昏睡」(CERI・NITE有害性評価書 No.62 (2004))、「肺のうっ血、浮腫、巣状肺泡出血」(環境省リスク評価 第1巻 (2002))等の記述、実験動物については、「深い麻酔作用」(EHC 190 (1997))、等の記述があることから、呼吸器、肝臓、中枢神経系、腎臓を標的臓器とし、麻酔作用をもつと考えられた。以上より、分類は区分1(呼吸器、肝臓、中枢神経系、腎臓)、区分3(麻酔作用)とした。

なお、これらの分類結果は組成不明のキシレンや、他の混合物(エチルベンゼンやトルエンなど)が含まれるキシレンを用いたデータである。

《特定標的臓器毒性》(反復暴露)

ヒトについては、「眼や鼻への刺激性、喉の渇き」(DFGOT Vol.15 (2001))、「慢性頭痛、胸部痛、脳波の異常、呼吸困難、手のチアノーゼ、発熱、白血球数減少、不快感、肺機能低下、労働能力の低下、身体障害及び精神障害」(CERI・NITE有害性評価書 No.62 (2004))等の記述があることから、呼吸器、神経系が標的臓器と考えられた。以上より、分類は区分1(呼吸器、神経系)とした。

なお、これらの分類結果は組成不明のキシレンや、他の混合物(エチルベンゼンやトルエンなど)が含まれるキシレンを用いたデータも採用している。

《吸引性呼吸器有害性》

o-キシレン、m-キシレン、p-キシレンのICSC (J) (2002)より、「液体を飲み込むと、誤嚥により化学性肺炎を起こす危険がある。」の記述があるため、区分2と分類した。

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11.08

・ エチルベンゼン

《急性毒性》

経口：ラットに対する経口投与のLD50=3,500 mg/kg (EHC 186 (1996)), 4,769 mg/kg (ATSDR (1999)) に基づき、低い値のLD50=3,500 mg/kgから、区分5とした。

経皮：ウサギに対する経皮投与のLD50=15,400 mg/kg (ACGIH (7th, 2002)) に基づき、区分外とした。

吸入(ガス)：GHSの定義による液体であるため、ガスでの吸入は想定されず、分類対象外とした。

吸入(蒸気)：ラットに対するLC50=17.2 mg/L (4,000 ppm) (ATSDR (1999), EHC 186 (1996)) に基づき、区分する。飽和蒸気圧濃度は9,000 ppmである。LC50=4,000 ppmは飽和蒸気圧濃度の90%より低い濃度であるので、ppm濃度基準値を適用して、区分4とした。

吸入(粉じん、ミスト)：データなし

《皮膚腐食性／刺激性》

ATSDR (1999) の皮膚一次刺激性試験結果の記述「24時間皮膚適用で軽度 (mild) の皮膚刺激性を示した。」から、4時間適用試験結果ではないが、エチルベンゼンは軽度の皮膚刺激性を有すると考えられ、区分3とした。

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》

EHC 186 (1996) のウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述「結膜に軽微な刺激性、角膜に影響なしあるいは回復性の損傷を示した。」から、エチルベンゼンは軽微から軽度な眼刺激性を有すると考えられ、区分2Bとした。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性：データなし

皮膚感作性： ACGIH (7th, 2002)、EHC 186 (1986) のボランティアの皮膚感作性試験結果の記述から、ヒトに対する皮膚感作性はないと考えられるが、この試験結果一つだけでは結論付けられないこととACGIHは皮膚感作性について評価していないことを合わせて考え、データが不十分であるため「分類できない」とした。

《生殖細胞変異原性》

SIDS(2005) の記述から、経世代変異原性試験なし、生殖細胞in vivo 変異原性試験なし、体細胞in vivo 変異原性試験(小核試験)で陰性であることから、区分外とした。

《発がん性》

IARC(2000)で2B、ACGIH(2001)でA3に分類していることから、区分2とした。

《生殖毒性》

CERIハザードデータ集 96-41(1998)、SIDS (2005)、環境省リスク評価第1巻 (2002)の記述から、マウス及びラットを用いた催奇形性試験において、母体毒性を示さない用量で胎児毒性(泌尿器の奇形)がみられていることから区分1Bとした。

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

CERIハザードデータ集 96-41 (1998) にて実験動物に対する中枢神経系への影響は、区分2に相当するガイダンス値の範囲で見られ、また気道刺激性も見られることから分類は区分2(中枢神経系)、区分3(気道刺激性)とした。

《特定標的臓器毒性》(反復暴露)

データ不足のため分類できない

《吸引性呼吸器有害性》

本物質は炭化水素である。ICSC (J) (1995)に「この液体を飲み込むと、誤嚥により化学性肺炎を起こす危険がある。」との記載があり、動粘性率が0.74 mm³/s(25C)であることから、区分1と分類した。

・ ジメチルエーテル

《急性毒性》

吸入(ガス)：ラットを用いた吸入試験(4時間ばく露)における、LC50:164,000ppm(DFGOT (vol.1, 1991), PATTY(5th, 2001))のデータを採用し区分外とした。

《特定標的臓器毒性》(単回暴露)

ガイダンス値を超える用量で実施されたウサギの吸入試験(45分)およびイヌの吸入試験(5分)において麻酔作用、血圧、心拍数の低下の記載(DFGOT (vol.1, 1991))、また、ヒトにおいて意識喪失、視野喪失、痛覚喪失などの神経系の影響記載(DFGOT (vol.1, 1991))があることから区分3(麻酔作用)とした。

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11. 08

《特定標的臓器毒性(反復暴露)》

ラットの14日間の吸入試験(1日6時間、週5日間)において10000ppmの用量で体重の減少以外に顕著な影響は認められずNOAELは<10000ppmとしている。また、ラットの13週間吸入試験(1日6時間、週5日間)において、20000ppmの用量でSGOTの増加および肝重量の減少およびSGPTの増加が認められたが、2000ppmの用量では認められていない。ハムスターの13週間吸入試験(1日6時間、週5日間)において、20000ppmの用量で白血球数の減少の所見が得られた(DFGOT (vol.1, 1991))が、10000ppmの用量では有意ではなくNOAELを5000ppmとしている。これらの用量は、いずれもガイダンス値区分2の範囲の上限を超えていることから区分外とした。

1 2. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ キシレン

《水生環境有害性(急性)》

魚類(ニジマス)の96時間LC50=3.3mg/L(CERI・NITE有害性評価書、2005)から、区分2とした。

《水生環境有害性(慢性)》

急性毒性が区分2、生物蓄積性が低いと推定されるもの(log Kow=3.16(PHYSPROP Database、2005))、急速分解性がない(BODによる分解度：39%(CERIハザードデータ集、2005))ことから、区分2とした。

・ エチルベンゼン

《水生環境有害性(急性)》

甲殻類(ブラウンシュリンプ)の96時間LC50=0.4mg/L(CERI・NITE有害性評価書(暫定版)、2006)から、区分1とした。

《水生環境有害性(慢性)》

急速分解性があり(本質的に易分解性があり、水中から速やかに揮散する(SIDS、2005))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=3.15)ことから、区分外とした。

・ ジメチルエーテル

《水生環境有害性(急性)》

魚類(グッピー)の96時間LC50 > 4000 mg/L、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 > 4000 mg/L(いずれもIUCLID、2000)から、区分外とした。

《水性環境有害性(慢性)》

難水溶性でなく(水溶解度：4.6E+004 mg/L(PHYSPROP Database、2008))、急性毒性が区分外であることから、区分外とした。

オゾン層への有害性： データなし

1 3. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類

クラス2.1 引火性ガス

国連番号

1950 エアゾール類

容器等級： 該当しない

海洋汚染物質： 該当

国内規制：

容器イエローラベル

126 気体-圧縮又は液化(冷気気体を含む)

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11. 08

積載方法

運搬時の積み重ね高さは3 m以下

混載禁止

第1類及び第7類の危険物
 高压ガス

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・「火気厳禁」
- ・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・荷くずれ防止を確実にを行う。
- ・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・直射日光を避ける。
- ・水漏れ厳禁。
- ・横積み厳禁。
- ・夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15. 適用法令

火薬類取締法：

対象外

高压ガス保安法：

エアゾールの為非該当

消防法：（ ）内は、指定数量

第四類第2石油類非水溶性危険等級Ⅲ（1，000L）

毒物及び劇物取締法（毒劇物取締法）：

該当物質は含むが規定量以下のため非該当。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法：

表示対象物質を含有する。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

通知対象物質を含有する。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法（有機溶剤中毒予防規則）：

該当

第二種有機溶剤を含有する。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

労働安全衛生法（危険物）：

引火性の物

可燃性のガス

特定化学物質障害予防規則： 該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法（PRTR法）：

PRTRIに該当する。（詳細は 3. 組成、成分情報を参照）

16. その他の情報（参考文献等）

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
 JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版（日本オートケミカル工業会）

危険物船舶運送及び貯蔵規則（海文堂）

整理番号	耐熱シルバーコート 300MLX10X2	作成日	2004年6月1日
2755-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年4月13日

Ver. 11.08

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。